

朝の礼拝

聖書 マルコによる福音書 1章 35-39節 (新約聖書 62頁)

朝早くまだ暗いうちに、イエスは起きて、人里離れた所へ出て行き、そこで祈っておられた。シモンとその仲間がイエスの後を追い、見つけると、「みんなが捜しています」と言った。イエスは言われた。「近くのほかの町や村へ行こう。そこでも、わたしは宣教する。そのためにわたしは出て来たのである。」そして、ガリラヤ中の会堂に行き、宣教し、悪霊を追い出された。

さわやかな微笑み

誰かを好きだ、嫌いだと感じるのは「自分」です。歌ったり、踊ったり、奏でたり、演じている時、素晴らしいと思う瞬間もあれば、つまらないと思うのも「自分」です。そしてどうしたらいいのかわからなくて自分の中で堂々巡りして、悩むのも「自分」です。

そこで友だちに話を聞いてもらい、おとなに相談し、そしてネットの情報や知識を頼りにするわけです。でも確かなことは「自分」で考え、「自分」で生きて、「自分」で生きる意味に気づくことです。自分自身について考えると同時に、他人（ひと）のことも考えることです。

それは自分の過ちや足りないところ、また同時に他人（ひと）の過ちや足りないところも愛おしく感じ、赦し合い、微笑み合う瞬間なのかもしれません。お互いに未熟だし、まだまだこれから変わる、成長すると信じている姿です。

イエスは人里離れたところでひとり祈られました。ひとりになって何を感じ、思い、悩んでいたのか。そして何を考え、祈っていたのかはわかりません。でも「ほかの町や村へ行こう」と言われたイエスが、私にはとてもさわやかに微笑んでいるように見えます。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ、あなたは大勢の人々のところへ行かれながら、同時に人里離れたところでひとり祈っておられました。私たちは自分で感じ、思い、悩みます。どうか自分や周囲から解放され、自由に自分自身を見つめ、他人（ひと）のことを考え、共に祈り、あなたに喜ばれる道を歩ませてください。どうか今日一日もすべてをあなたに委ね、よき学びのうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン